

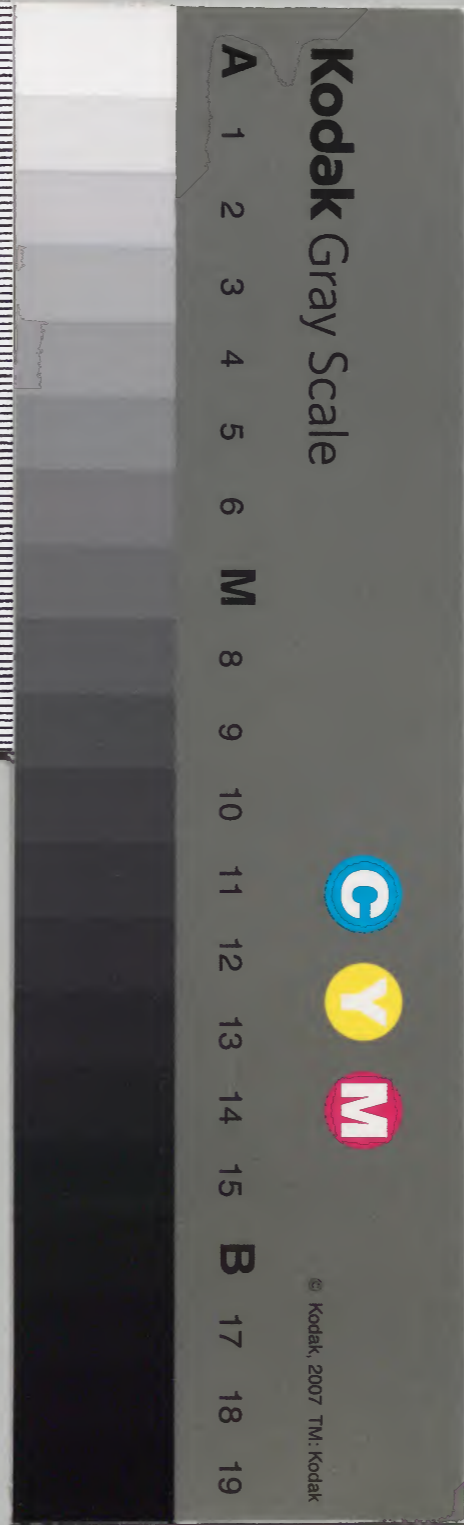
守 襄

下

庫 文 閣 内			
函	九		和
八	三		書
架	冊	號	類

和 書 門			
	一	九	
	二	三	
	五	二	
冊	架	函	號

内 閣 文 庫	
番 號	和 19012
冊 數	3 (3)
函 號	149 79



守裏卷之下

一 目 祿

徳川家所軍器乃因

二 橋本殿陣右敷の因

三 井原新一抽 尾州公所後

口宣乃写

柳屋所後所英軍者

所後所と所殿の記

二 凡所宮所守比事

紅雲山所宮乃事

吹上所庭の燈籠

浄土の唄を組
 吹上り山吹流乃名新重
 新君所授生日支干相尚乃浄後倭
 所轉任浄任槐の擇

浄土の唄を組
 吹上り山吹流乃名新重
 新君所授生日支干相尚乃浄後倭
 所轉任浄任槐の擇

守囊卷之下

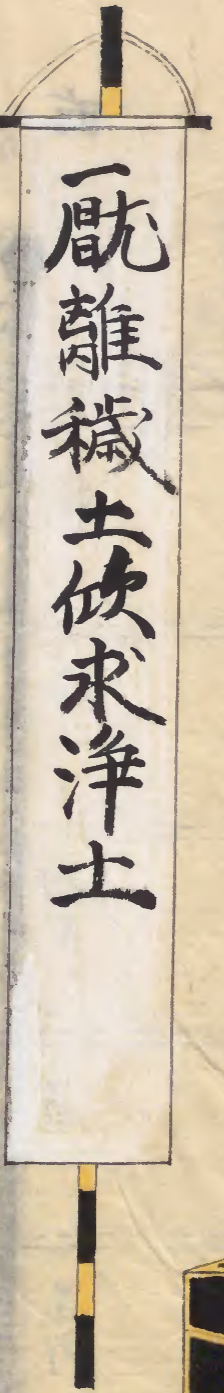
徳川家御軍器

浄土文御幡一流

地白文字黒

此御幡日光
御宮納之下云々

御幡名
黒添塗

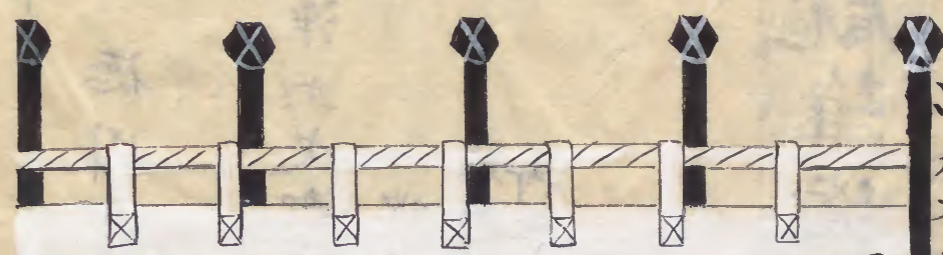


御紋

御幕兩流ノ内 白地御紋黒

串九本九字ニ表ス 三丈六尺繩 左右三尺宛

臨 兵 闘 者 皆



冠

命

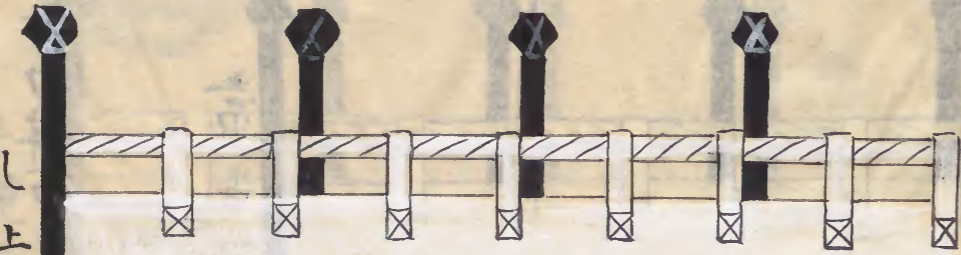
物見

負

芝打



陣 烈 在 前



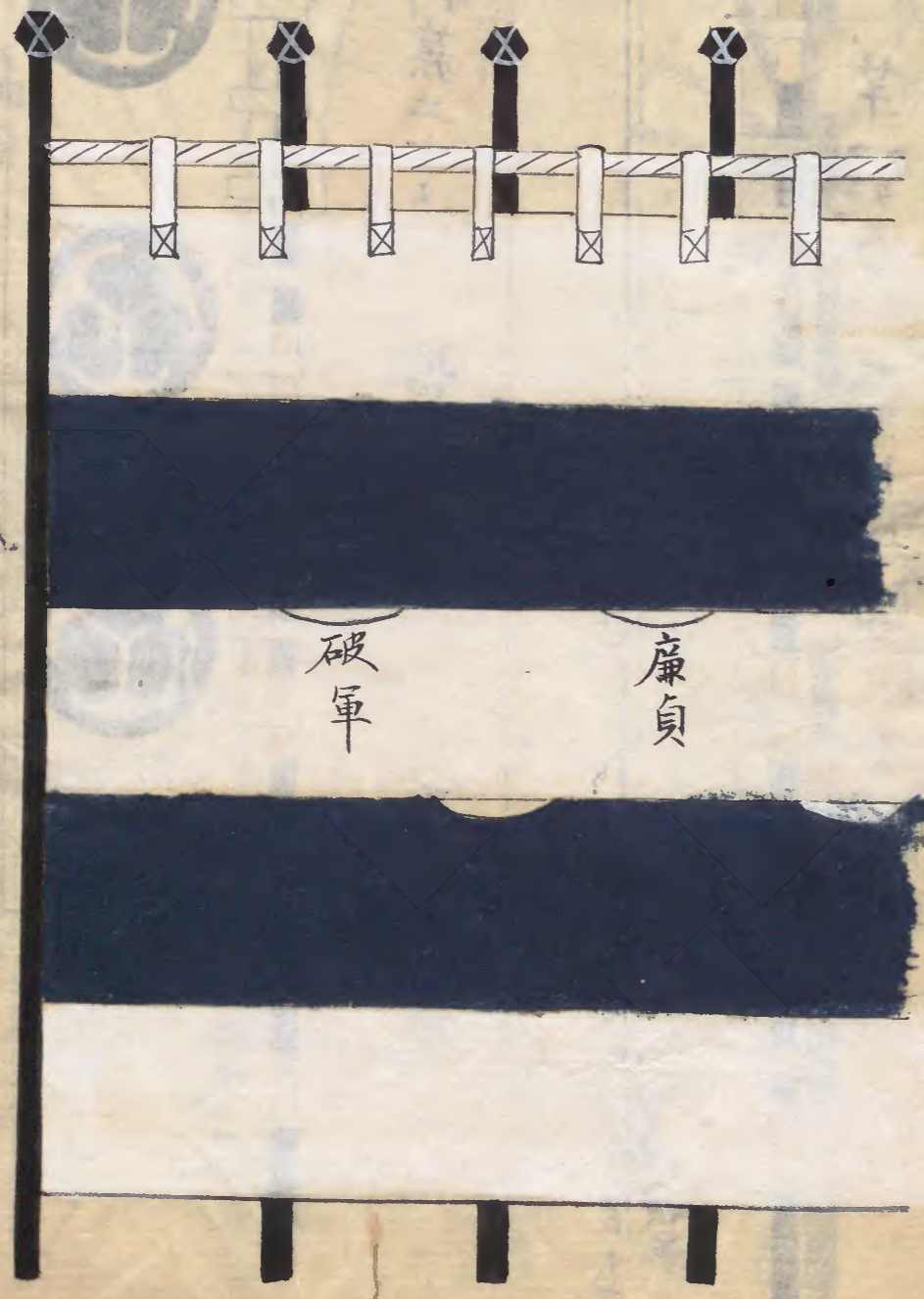
乳 上中下五十三世六寸八
廣六分長二寸八分
畚付一寸二分合四分ヌイメ叶



御幕兩流内

御紋無白紵布交
紵白三段
紵二段

常八串八本 八大龍王表又



手繩金剛童子

串長廿八尺宛

一三内流内
御紋無
白紵布交
紵白三段
紵二段
七



共向一尺

御小馬印



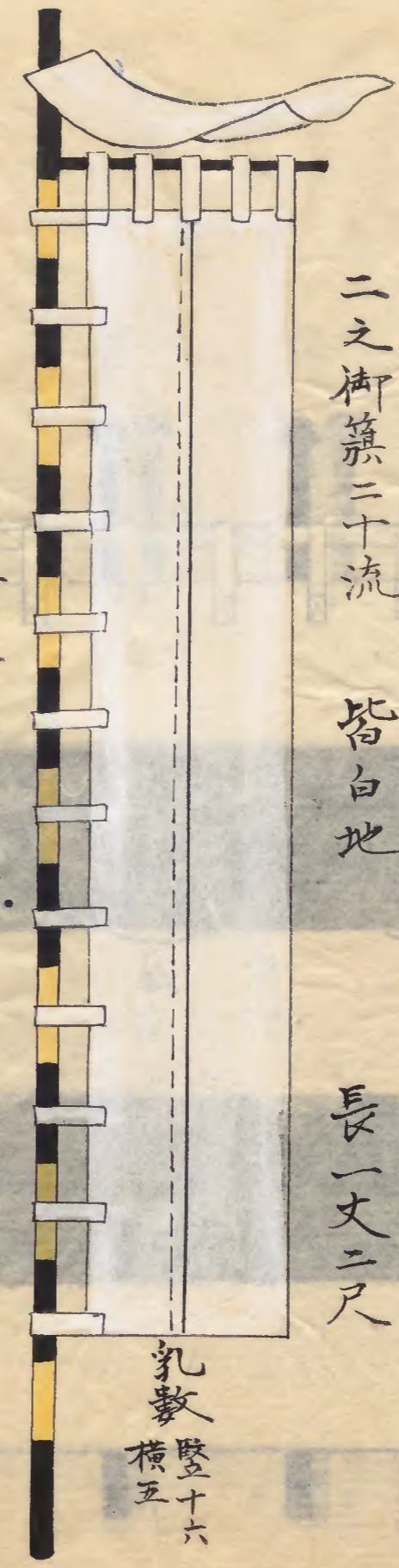
大御馬印

柄長一丈三尺

金扇黒塗土本骨地紙長三尺一寸五分
骨長五尺九寸此纏一丈一尺五分

銀ノ鷲半月
指渡之四尺二寸

柄長一丈廻り四寸五分



竿一丈九尺 太廿目通四寸六分廻り

乳數 横五 縦十六

二之御簾二十流

皆白地

長一丈二尺



一之御簾七流白地 御紋黒三ツ宛
吹流御紋一ツ宛

長一丈

竿二丈一尺

御関船安宅凡百様立
 天和二戌年御解船被仰付
 同大龍凡六十様立
 享保十七子年河野勘右衛門兼復
 之義御解船被仰付
 同天地凡七十六様立



並御船印

浅黄吹貫
 御紋赤



浅黄四半
 御紋赤



御座

御船印

御紋赤

白地吹貫
 赤金ノ採

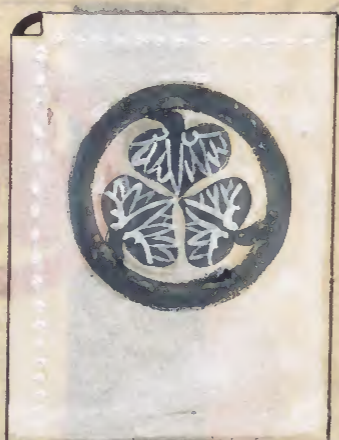


白地四半
 御紋赤



白地吹貫
御紋花色

並御船印



白地四半
御紋花色



白地吹貫
御紋赤

並御船印

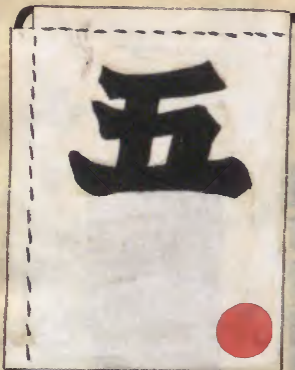


白地四半
御紋赤

大目付
御普請奉行
御目付
御使番

此五役者下國不知ノ赤地親及
五文字ヲ顯シタル四半ノ指物ヲ以テ
合印トナス

赤地親



五文字大廿不同
地籠門色各任
五文字下ニ自分紋
或ハ色繪アリ



出三半一尺三寸ヨリ
八十位迄下倣之



金輪貫

御旗本物惣印



紺布文吹貫
御紋赤

並御船印



兩耳紺
申白四半
御紋赤

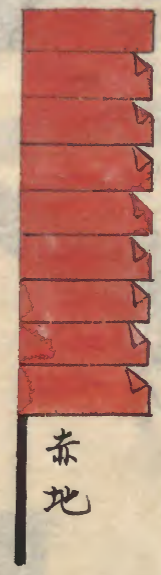
或書二
 寛永九壬申年
 諸番諸役ノ母衣
 指物具足等齊定

御小性組

切裂境
 出任心

御小性組番頭之始記
 台店之寛永大坂御陣以前慶長年中始而被
 竹付始御花畑御番上云十八人頭御使頭上
 三役兼帶云

一番



赤地

二番



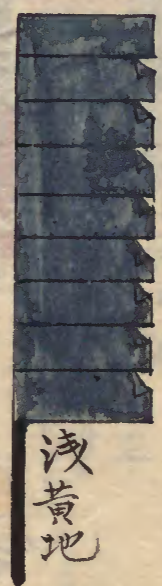
紫地

三番



白腰替

四番



浅黄地

五番



紺腰替
 赤

六番



白段
 赤

七番



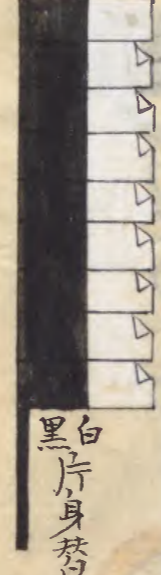
黒地

八番



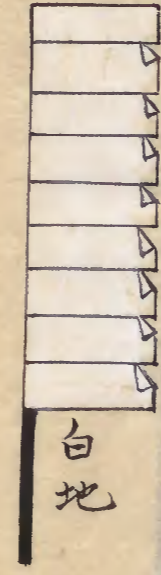
上下白
 中黒

九番



白片身替
 黒

十番



白地

御書院番

母衣
 出任心

一番



黄

二番



紫

三番



浅黄

四番



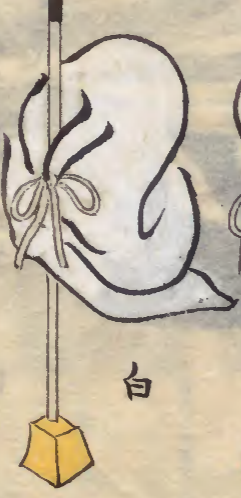
地白
 中黒

五番



黒

六番



白

七番



黑白布文

八番



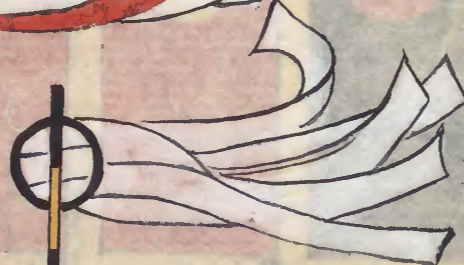
紫
 浅黄
 布文

右同新
新組

新組

享保九
辰土月

五番



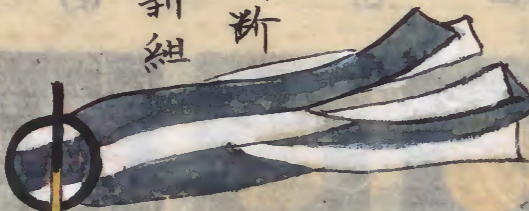
赤白
布交

白

白地
頭黒

上同新
新組

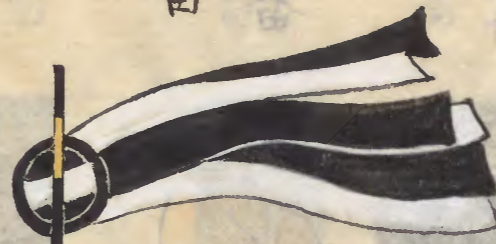
六番



白色
花色
布交

黒

三番



黑白
布交

四番



紅

二番



黄



浅黄

或書
寛永二十癸未年
新御番四組始
被仰付
御番
度安元癸卯年二組別御元
一番

九番



白地
赤丸
皇

新御番
吹貫
出之儀

十番

兼應三
甲午年指物五色
吹流
定人元



白
赤布交

五番



朱白
紋地

三番



黑白
紋地

一番



白赤
紋地

六番



朱黑
紋地

四番



金淺黃
紋地

二番



金紺
紋地

十一番



朱白
紋地

土番



黑白
紋地

小十人組

出之半面紋所

御借具是皆朱基石頭紺糸索掛織冠椎形鎖
手蓋板脛衣袴頭煩前立輪貫袖脇富

九番



朱淺黃
紋地

十番



白紫
紋地

七番



白赤
紋地

八番



金紫
紋地

五番



金赤
紋地

六番



金淺黃
紋地

三番



朱紺
紋地

四番



金紺
紋地

一番



白黑
紋地

二番



赤黑
紋地

大御番

折掛四半
出之無之

三番



相印凡菴縁花色

一番



相印九曜黒漆菴縁黒

四番



相印輪違 菴縁同断

二番



相印大之字 菴縁同断

十番



白緋地 紋

九番



黒地 白紋

七番

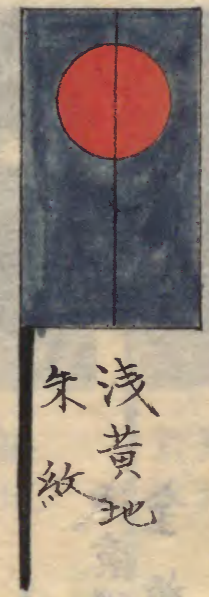


白布交 黒紋

御徒

御陣羽織 猩々緋袖 黒花色ノ菴縁 金軍沓圍 相印各紋如左

十番



浅黄地 朱紋

八番



金赤地 紋

十一番



相印横筋 笹縁目折

九番



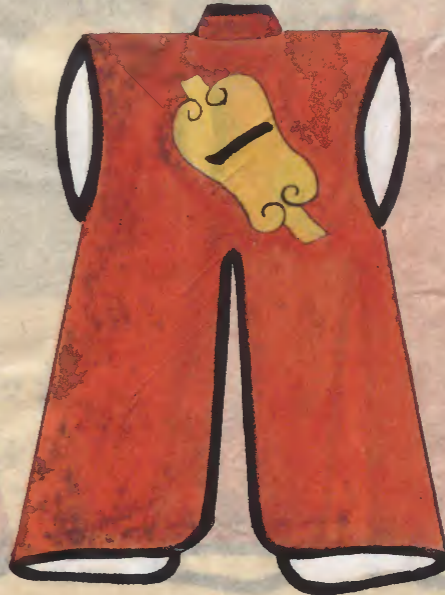
相印地紙 笹縁花色

七番



相印千子 笹縁目折

五番



相印一文字 笹縁黒

十二番



相印瓢箪 笹縁目折

十番



相印丸違角 笹縁目折

八番



相印十三地 笹縁目折

六番



相印輪貫 笹縁目折

右所軍器は定文三年四月十三日所定有

四番



相印山道 甚縁同新

二番



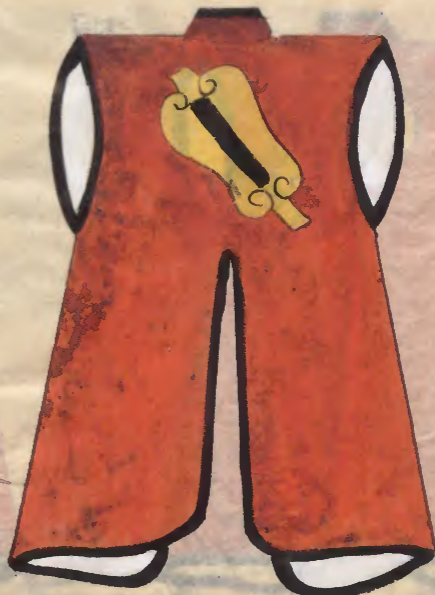
相印山道 甚縁同新

十五番



相印筋違 甚縁同新

十三番



相印 甚縁同新

五番



相印鱗 甚縁同新

三番



相印十之字 甚縁黒

西凡 一番



相印 甚縁花色

十四番



相印八文 甚縁同新



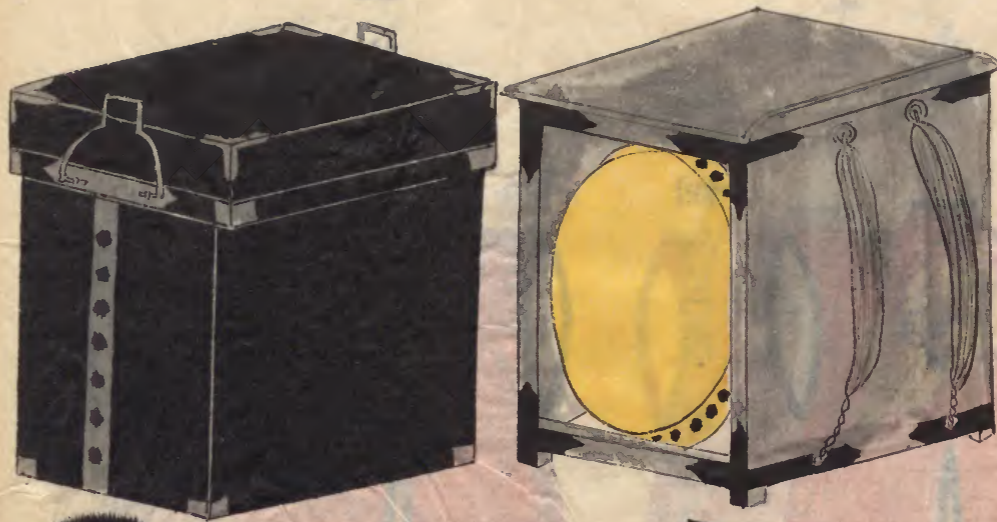
見
右貝後腰小旗



米
左鞆後腰小旗

黄絹
合赤赤

空色絹
合赤赤



御陣太鞆之圖



一ツ橋御館所陣太鼓之図

道中金沖夜行黒組
 草履
 太鼓胴鉄包錆色腐カニ
 地紋雲輪明巾一尺
 草金濃緑通黒塗
 差込一尺三寸三下
 鉄鉄丸袂物梅室下尻
 鉄紐江二女三長三寸
 撥黒塗頭草包金濃
 長九尺
 幕猩々排長七尺巾二尺
 一寸紐紫色長一尺五寸
 袋乳引通
 黒塗金和盆城金高廿
 内法二尺上方前後一尺
 七寸五分横一尺一寸五分
 下前方後一尺九寸横
 一尺二寸五分



新君御歌一軸

新君御歌 尾刻公御月筆此御歌

源家正嫡 武門栋梁 興新田跡
 出參州郷 威風大振 德澤益彰
 所向無敵 不招瑞跡 有仁有智
 克柔友剛 一統双業 萬年永昌

此一軸是東郡岩門傳通院所當物なり

此書乃寫

去々年以來天下可令強勅之處其方以討

大平三相治復股全忠勅之處致也 依る可令

補佐

大樹之申令 勅復者彌可擢テキス太平之勅者也

執達如何

天明八申年二月

烏丸前大納言

松平新中ヨ

柳雲河佐附英筆者

表法森彦松竹 松竹春朴 大庭岡附佐 松竹南風 西々

日新社の同松竹 松竹春朴の同松竹 松竹春朴の同松竹

松竹春朴の同松竹 松竹春朴の同松竹 松竹春朴の同松竹

松竹春朴の同松竹 松竹春朴の同松竹 松竹春朴の同松竹

松竹春朴の同松竹 松竹春朴の同松竹 松竹春朴の同松竹

松竹春朴の同松竹 松竹春朴の同松竹 松竹春朴の同松竹

松竹春朴の同松竹 松竹春朴の同松竹 松竹春朴の同松竹

松竹春朴の同松竹 松竹春朴の同松竹 松竹春朴の同松竹

松竹春朴の同松竹 松竹春朴の同松竹 松竹春朴の同松竹

松竹春朴の同松竹 松竹春朴の同松竹 松竹春朴の同松竹

松竹春朴の同松竹 松竹春朴の同松竹 松竹春朴の同松竹

芙蓉の葉の形を核曰牡丹の葉の如く同丁柿の葉の如く同

藤の葉の如く同秋の葉の如く同牡丹の葉の如く同

紅葉の葉の如く同秋の葉の如く同牡丹の葉の如く同

同核の葉の如く同秋の葉の如く同牡丹の葉の如く同

同核の葉の如く同秋の葉の如く同牡丹の葉の如く同

同核の葉の如く同秋の葉の如く同牡丹の葉の如く同

同核の葉の如く同秋の葉の如く同牡丹の葉の如く同

同核の葉の如く同秋の葉の如く同牡丹の葉の如く同

同核の葉の如く同秋の葉の如く同牡丹の葉の如く同

同核の葉の如く同秋の葉の如く同牡丹の葉の如く同

同核の葉の如く同秋の葉の如く同牡丹の葉の如く同

同核の葉の如く同秋の葉の如く同牡丹の葉の如く同

同中仕切柄の如く同新後湯の同中仕切柄の如く同
同中仕切柄の如く同新後湯の同中仕切柄の如く同
同中仕切柄の如く同新後湯の同中仕切柄の如く同
同中仕切柄の如く同新後湯の同中仕切柄の如く同
同中仕切柄の如く同新後湯の同中仕切柄の如く同
同中仕切柄の如く同新後湯の同中仕切柄の如く同
同中仕切柄の如く同新後湯の同中仕切柄の如く同
同中仕切柄の如く同新後湯の同中仕切柄の如く同
同中仕切柄の如く同新後湯の同中仕切柄の如く同
同中仕切柄の如く同新後湯の同中仕切柄の如く同

御代の新し御殿の記

竹橋 治法公御殿天授後保寛永三年二月廿六日迄

二九 治法公御殿天授後保寛永三年二月廿六日迄

三九 治法公御殿天授後保寛永三年二月廿六日迄

頃不文文三年六月廿五日

五凡 瑞云後致文孫七年頃不文永六年四月頃近河住居

古三凡 瑞云孫五知

新田 左憲公家十一年七月頃不文家八年六月七日頃近河

板田 文昭公馬家父佐揚後孫家長元年九月頃不文家六年九月頃近河

白山 桂昌後孫家元年三月頃近河

中凡 大能公河原下理後孫家二年六月頃近河

三田河原敷 佐揚後孫家母順性後孫家元年頃近河

右河原 頃不文日記著田紀之頃不文中

高田 寛永十六年六月頃近河

葛西 橋毛中尔 府中 弘橋 越谷 寛永十六年六月頃近河

水河級 寛永十七年二月頃近河

角田川 同二年二月十三日頃近河

源川 同十九年七月十日頃近河

石井 同二十年三月廿二日頃近河

小菅 同二年二月廿六日頃近河

王子 同四年十月廿九日頃近河

舟込 同五年三月廿六日頃近河

小石川 天和二年六月十日頃近河

淡河殿 常憲公 同二年九月十八日頃近河

石通 頃不文日記著田紀之頃不文孫家元年頃近河

林 大善次

二九 淨宮の事

寛永十年三月二九日 淨宮の事 山崎宗鑑公年九月十九日 備前正殿
以書云 山崎宗鑑公年九月十九日 備前正殿 宗鑑公年九月十九日 備前正殿

寛永十年二月 淨宮 山崎宗鑑公年三月 紅雲山

淨宮 山崎宗鑑公年三月 古淨宮の相唱中

九月十九日

代傳 高野 日吉院

紅雲山 淨宮の事

元文三年九月廿五日 寺社奉行 山崎宗鑑公年三月 山崎宗鑑公年三月

是

大藏院 淨代

権現寺 山崎宗鑑公年三月 山崎宗鑑公年三月

台徳院 山崎宗鑑公年三月 元禄八年 淨代 凡以天守り

権現寺 淨宮 山崎宗鑑公年三月 淨代 凡以天守り

台徳院 山崎宗鑑公年三月 元禄八年 淨代 凡以天守り

淨宮 山崎宗鑑公年三月 元禄八年 淨代 凡以天守り

大藏院 山崎宗鑑公年三月 元禄八年 淨代 凡以天守り

淨宮 山崎宗鑑公年三月 元禄八年 淨代 凡以天守り

紅雲山 山崎宗鑑公年三月 元禄八年 淨代 凡以天守り

山崎宗鑑公年三月 元禄八年 淨代 凡以天守り

淨宮 山崎宗鑑公年三月 元禄八年 淨代 凡以天守り

淨宮 山崎宗鑑公年三月 元禄八年 淨代 凡以天守り

淨宮 山崎宗鑑公年三月 元禄八年 淨代 凡以天守り

有之... 他... 大... 十... 万...
有之... 他... 大... 十... 万...
有之... 他... 大... 十... 万...
有之... 他... 大... 十... 万...
有之... 他... 大... 十... 万...

乙九月

吹上... 傳法...

傳法...

吹上... 有... 十... 万...
吹上... 有... 十... 万...
吹上... 有... 十... 万...
吹上... 有... 十... 万...
吹上... 有... 十... 万...

一紅...

宝... 祈... 祈...
宝... 祈... 祈...
宝... 祈... 祈...
宝... 祈... 祈...
宝... 祈... 祈...

一地...

宝... 祈... 祈...
宝... 祈... 祈...
宝... 祈... 祈...
宝... 祈... 祈...
宝... 祈... 祈...

宣永八年二月廿五日... 宣保十三年申年... 宣保十三年申年... 宣保十三年申年... 宣保十三年申年...

宣保十三年申年... 宣保十三年申年... 宣保十三年申年... 宣保十三年申年...

宣保十三年申年... 宣保十三年申年... 宣保十三年申年... 宣保十三年申年...

宣保十三年申年... 宣保十三年申年... 宣保十三年申年... 宣保十三年申年...

宣保十三年申年... 宣保十三年申年... 宣保十三年申年... 宣保十三年申年...

宣保十三年申年... 宣保十三年申年... 宣保十三年申年... 宣保十三年申年...

宣保十三年申年... 宣保十三年申年... 宣保十三年申年... 宣保十三年申年...

宣保十三年申年... 宣保十三年申年... 宣保十三年申年... 宣保十三年申年...

一 廣芝

宣保十三年申年... 宣保十三年申年...

一 河馬建

宣保十三年申年... 宣保十三年申年... 宣保十三年申年...

一 本城山下流

宣保十三年申年... 宣保十三年申年...

一 田地千石

宣保十三年申年... 宣保十三年申年...

一 三角矢来

宣保十三年申年...

宣保十三年申年... 宣保十三年申年...

宣保十三年申年... 宣保十三年申年...

宣保十三年申年... 宣保十三年申年...

宣保十三年申年... 宣保十三年申年...

宣保十三年申年... 宣保十三年申年...

宣保十三年申年... 宣保十三年申年...

一 株上河橋 元文三年二月廿五日 幕府廢屋出後其製
一 山吹川流 寛保三年山吹川移竹原 此亭也 亦年枕括
一 新山草屋

宝曆之安年廿年 同所畑畑 即竟親 以額定改 七年 枕括 廿年
一 同山草屋 亦年枕余

一 新山草屋 長百方巾之弓 宝曆之安年 廿年
一 同上夜所 宝曆之安年 廿年 廿年

一 株上河橋 天保三年三月廿年
一 新山草屋 同八年二月廿年

一 地至山下流 寛政元年八月廿年
一 田舎山草屋 同七年四月廿年 雪月富山草屋 枕括 廿年 廿年

一 河内山草屋

寛政八年六月廿年 同新山草屋 元弓
河内山草屋 出弓 寛政十年 山草屋 元弓 二 廿年 九月廿年 廿年
河内山草屋

一 同新山草屋 寛政十年 井月 河内山草屋 廿年

一 河内山草屋 寛政七年 廿年 廿年

一 河内山草屋 寛政七年 八月廿年 親出 亦年 御業 其山 抱入 此山 畑 限 廿年
亦年 廿年 方 山 草 屋 廿年 廿年

一 河内山草屋 長九十四弓 寛政元年 廿年 廿年

一 廣芝 一 當坊 寛政三亥年七月廿四日
 一 山橋 當坊 同 寛政三亥年七月廿四日
 一 新山 當坊 海峯 寛政七亥年九月廿五日
 一 琉球 當坊 二 當坊 寛政十一申年九月廿五日
 一 大道 五山 橋 當坊 享和元年六月廿五日
 右 山 上 湯 後 新 山 花 苑 五山 一 奉

此 船 唄 十 句 組
 皇 帝 苑 隆 苑 大 王 舞 酒 苑 踊 苑
 花 標 麻 島 月 見 苑 朝 侍 苑 朝 の 女 房
 道 中 苑 同 中 同 下 白 浪 堤 三 谷 通 以

大 手 の 花 玉 門 苑 皇 皇 月 芽 花 中
 秋 名 形 苑 庭 人 苑 此 花 苑 永 色 一 一 花
 丹 持 松 苑 和 帝 苑 酒 苑 秋 苑 吉 北 山 苑 三 谷 通 以
 八 重 菊 二 夜 二 歌 年 以 歌 思 以 年 一 島 聖 苑
 明 之 玉 花 苑 川 海 苑 与 出 苑 多 苑 白 玉
 忠 渡 伊 草 苑 海 苑 賢 人 苑 三 花 苑 門 苑 沙 花 苑
 毫 田 川 苑 三 車 苑 一 智 苑 熟 海 苑 三 花 苑 一 中 侍 苑 踊
 代 如 苑 水 戸 苑 三 苑 長 崎 苑 出 苑 多 苑 如 苑 中
 浪 苑 飲 以 苑 骨 苑 花 豆 苑 梅 苑 古 年 苑 一 十 中 三
 七 子 苑 笑 苑 古 苑 多 苑 心 苑 古 年 苑 一 所 人 苑 持 以
 八 島 苑 意 苑 苑 苑 苑 苑 池 田 苑 嶺 苑 二 千 八 苑

以上名新書

久政元年 台令出るとき道乃因く地名に依りての苗姓
此苗姓の類は同く一二月末の三三三と云ふは以上乃苗姓の類
山吹原の類は此類に在りて其類の名を以てする

高砂ノ和 繼然ノ和

名新姓和

天ノ橋立

北ノ天社

和名馬山

徳見堂和

比叡山

三井寺

小北和

和名山

須磨和

以名

衣笠山

吉野山

清水寺

三神山

三神山

定路山

安院

一ノ洲堂

二ノ洲和

三ノ洲和

四ノ洲和

梅ノ宮和

今宮和

栗栖和

並園

玉ノ井

榮谷和

河内宮和

和名ノ浦和

衣笠山

難波和

金谷山和

薩長和

栗田山和

園ノ和

津和

高北山和

依見 教早和

祐君 所後生日支干五南并山後依

天明二年十一月廿五日書付

明正二年

檜御孫 所後生日支干五南并山和

所後生 所後生日支干五南并山和

廣田山 所後生日支干五南并山和

右ノ通可相和

左田山 所後生日支干五南并山和

所後生日支干五南并山和

御轉任所任槐之擇

比後七井大徳政殿奉年奉 所轉任所任槐所用哉と仰付
右を以て後作所定例未有人事と仰付事奉御事

所轉任と申

公方権右大臣正三位左大臣兼左大臣正四位上
奉公大臣正四位上中納言右大臣正四位上
と申所任一位之殿右大臣正四位上 所任槐と申
右大臣権内大臣正四位上兼左大臣正四位上
と任槐と申し其後内大臣右大臣右大臣右大臣
所任と申し其後内大臣右大臣右大臣右大臣
槐の承次三木槐と申す其後立並有と申す
三木のりとも三槐と申す其後立並有と申す
槐の承次三木槐と申す其後立並有と申す
五下人をもつてくるの事と申す其後立並有と申す
八月十八日 宣永三年

台徳院孫太右大臣大政大臣子任一位と叙又
所父子大臣と申す其後立並有と申す

東照宮孫太右大臣の御 將軍宣下の日

所同公孫太右大臣の御七月廿七日 將軍宣下の日

大徳院孫内大臣子任 宣永三年八月十八日

台往院孫右大臣子任 宣永三年八月十八日

所交藤原内大臣の事

東照宮孫太右大臣長元奉内大臣子任同八年二月十日

征夷大將軍子補と申す其後立並有と申す

少所上洛有と申す其後立並有と申す

所入所と申す其後立並有と申す

東の細子...
御子...
御孫...

御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...
御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...
御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...

御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...

御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...
御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...
御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...

御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...

御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...

御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...

御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...
御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...
御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...

御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...

御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...
御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...
御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...

御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...

御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...

御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...
御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...
御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...

御孫... 二位... 桂昌院... 天英院...

因右長を尋ねりその福運のくねり又くねり
天皇 河元後の時河元冠を賜り以て大政を任ずるの
りゆを 河元後命すは必大政を任ずるを任ずるに
因右長を尋ねり其の福運のくねり又くねり
石但 河元後命すは必大政を任ずるの
已十月七日

大同法西

右秘書或人下を信ずるに法は是法也といふ者有るは
本年より藤原切共のもの也

守叢下之巻年

守叢追か

神冥冥々京御陣乃とよ

以右杖はは夕暮牙をいひしりて是後皇位を
此河奇杖ありて申不若因侍也

其以乃杖は夕暮おしとていへば後神乃高り記

神冥冥々京御陣乃とよは知れは此後平御後成
神冥冥々京御陣乃とよは知れは此後平御後成

神冥冥々京御陣乃とよは知れは此後平御後成

神冥冥々京御陣乃とよは知れは此後平御後成

神冥冥々京御陣乃とよは知れは此後平御後成

神冥冥々京御陣乃とよは知れは此後平御後成

神冥冥々京御陣乃とよは知れは此後平御後成

文雅在河原光夜光者知信也今も古も一乳の光夜
光の光るれを

神皇正統記の御事記に云く人若くは老くは

上意の事とて代々中絶く今も古も一乳の光夜光の光るれを

定はるれとて人若くは老くは神皇正統記の御事記に云く人若くは老くは

社名後世より故書とて云く人若くは老くは神皇正統記の御事記に云く人若くは老くは

御事記に云く人若くは老くは神皇正統記の御事記に云く人若くは老くは

也後世に於ては神皇正統記の御事記に云く人若くは老くは

是神皇正統記の御事記に云く人若くは老くは

神皇正統記の御事記に云く人若くは老くは

神皇正統記の御事記に云く人若くは老くは

刑部在事とて云く人若くは老くは

神皇正統記の御事記に云く人若くは老くは

定はるれとて人若くは老くは

神皇正統記の御事記に云く人若くは老くは

神皇正統記の御事記に云く人若くは老くは

神皇正統記の御事記に云く人若くは老くは

神皇正統記の御事記に云く人若くは老くは

神皇正統記の御事記に云く人若くは老くは

神皇正統記の御事記に云く人若くは老くは

少事なるりて忠徳也

あゝ 吾れは 何れ 下目 夢を 見し 恒物 作り たり

君は 河 感 あり 事 還 河 也 恒物 乃 故 作 是 恒物 の 流 井 柱 也

台 徳 後 殿 或 所 上 意 に 為 侍 上 存 三 三 此 如 故 是 通 なる 是

才 子 氣 遠 晴 院 才 子 地 表 雷 鳴 才 子 才 子 才 子 才 子 才 子 才 子

可 知 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事

才 子 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事

又 此 上 意 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事

乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事

乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事

乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事

乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事

乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事

乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事

乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事

乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事

乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事

乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事

乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事

乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事

乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事

乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事 乃 事

事を以て可く所遊して其の修め
所跡に入る可く計りしより上意らるる可く
枝多し相成候事候なりと申されし所跡
所感ありし事
大藏院殿 所感事及び此の所跡より
後事と知る可く此の所跡より
花の心も不敷く
候に教られたる所跡の薫り中花の心より
中より此の所跡より
氏より申されし事候なりと申されし所跡より
相成候事候なりと申されし所跡より

上意らるる可く計りしより
又寛永三年三月に
田畑一雁十羽計程
左の如く所跡より
感ありし事
又寛永三年三月に
田畑一雁十羽計程
左の如く所跡より
感ありし事
又寛永三年三月に
田畑一雁十羽計程
左の如く所跡より
感ありし事

法則元中より以後よりなるものには其の由 上巻の爲に奉
りしに及ぶるものと信じて候へども其の由を詳しに
候ふ所なきを遺り候へども其の由を詳しに候ふ
可和の色紙を系指す所の書物との御守り及御國法
政事 公儀の御守りの趣を以て承りて書物系指の事
及び其の由を色紙と指すべく 上巻を御守り候ふ所
ありしに及ぶるものと信じて候へども其の由を詳しに
候ふ所なきを遺り候へども其の由を詳しに候ふ
可和の色紙を系指す所の書物との御守り及御國法
政事 公儀の御守りの趣を以て承りて書物系指の事
及び其の由を色紙と指すべく 上巻を御守り候ふ所
ありしに及ぶるものと信じて候へども其の由を詳しに
候ふ所なきを遺り候へども其の由を詳しに候ふ

天正三年四月廿五日武田四郎信親 齋藤高直の御守り 九帖方七子
全書を引奉り 三つに御守り候へども其の由を詳しに
候ふ所なきを遺り候へども其の由を詳しに候ふ
可和の色紙を系指す所の書物との御守り及御國法
政事 公儀の御守りの趣を以て承りて書物系指の事
及び其の由を色紙と指すべく 上巻を御守り候ふ所
ありしに及ぶるものと信じて候へども其の由を詳しに
候ふ所なきを遺り候へども其の由を詳しに候ふ

海井虎一尉

上杉重隆の御年車丹波守との御年車海軍の御年車
乞食の中へ交へあるは

御年車は ちり 御年車 御年車 御年車 御年車 御年車

事 御年車 御年車 御年車 御年車 御年車 御年車

御年車 御年車 御年車 御年車 御年車 御年車

御年車 御年車 御年車 御年車 御年車 御年車

御年車 御年車 御年車 御年車 御年車 御年車

御年車 御年車 御年車 御年車 御年車 御年車

御年車 御年車 御年車 御年車 御年車 御年車

御年車 御年車 御年車 御年車 御年車 御年車

御年車 御年車 御年車 御年車 御年車 御年車

御年車 御年車 御年車 御年車 御年車 御年車

御年車 御年車 御年車 御年車 御年車 御年車

御年車 御年車 御年車 御年車 御年車 御年車

御年車 御年車 御年車 御年車 御年車 御年車

御年車 御年車 御年車 御年車 御年車 御年車

御年車 御年車 御年車 御年車 御年車 御年車

御年車 御年車 御年車 御年車 御年車 御年車

御年車 御年車 御年車 御年車 御年車 御年車

御年車 御年車 御年車 御年車 御年車 御年車

御年車 御年車 御年車 御年車 御年車 御年車

中へは色とて中水に於ては、雅事以てゆき、山は海を以て世に於
て、利能むる地の中、下を以て、山は海を以て、世に於ては、
あましとて、何とせん、とて、下を以て、山は海を以て、世に於ては、
かまじとて、上を以て、下を以て、雅事以て、山は海を以て、世に於ては、
中へは、山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
中へは、上を以て、下を以て、山は海を以て、世に於ては、
雅事以て、山は海を以て、世に於ては、
ヶ所の、花は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
大なる、山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
上へは、山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
中へは、山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、

かへく、物とて、山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
下を以て、山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
何の、山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
果を以て、山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、

中へは、山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、

此三補述、山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、
山は海を以て、下を以て、上を以て、山は海を以て、世に於ては、

徳廟を以て同志を以て湯澤のとき或修りて用授の幸とす
是を以て用授に於て三十九年同部入湯澤に於て

一木花 六井花

二火花 七岩花

三庭花 八庭花

四竹花 九庭花

五升花 十庭花

天正六年正月十日別安の地、惣々平信忠公海軍に於て
部々の初書に於て修りて

信長公
信長公

信長公
信長公

秀吉公
秀吉公

信長公
信長公

名に於て湯澤に於て修りて勇貞に徳を以て
而く威を以て湯澤に於て修りて

東照宮十三回湯澤に於て修りて

神
後水尾院
御製也

梓弓や一宿の良を以て修りて
部々の初書に於て修りて

文政二年正月十日賜

大樹に於て修りて

みどり湯澤に於て修りて

湯澤の湯澤田中納言に於て修りて

